



やまなし サイエンスラボ

山梨の産業の活性化や県民生活の
向上を目指す試験研究機関の紹介

vol. ① 森林総合研究所



正確な試験結果を得るため、キノコを栽培するための瓶を釜で加熱し、雑菌を取り除く

森林資源の研究で広がる 地域活性化の可能性

森林総合研究所は、森林資源であるキノコ「クロアワビタケ」の新品種の
開発や、薬用植物の産地化を目指す取り組みを行っています。

森林の保全と資源の 利用を図る試験研究

当研究所は、山梨県の森林・林業木材に関する研究を目的に、全国で3番目の県立林業試験場として昭和10年に、富士吉田市に設立された、長い歴史を持つ試験研究機関です。

平成6年に富士川町の現在の地に移転し、名称も「山梨県森林総合研究所」と改め、現在は、生産科、環境科、資源利用科の3科で、森林の育成、希少植物の保全、自然環境の保護、獣害対策、木材等の利用など、森林が持つ多様な機能の保全や、新たな利用などについて試験研究に取り組んでいます。また、研修・普及科では、研修や指導を通して研究成果の普及や林業技術者の養成

を行っています。

クロアワビタケの新品種 開発と栽培法の確立

私が所属する「生産科」では、森林の育成や、キノコ、山菜、薬用植物をはじめとした特用林産物の試験研究を通して、地域の活性化につながる、森林を活用した新しい事業を創出するための研究に取り組んでいます。特に、キノコの収穫量が少ない夏場に生産者の収入増につなげようと、平成23年から、温暖な気候でも収穫ができる「クロアワビタケ」に着目し、品種改良を行いました。その結果、気温が高い時期に長期間収穫が可能な新品种を開発するとともに、栽培法を確立しました。

現在は、県と生産者などによる生産



森林総合研究所
森林研究部 生産科
戸沢 一宏 主任研究員



研究員の指導のもと、薬用植物で地域を活性化していきたいです

芦安の将来を考える会
会長 森本 章雄さん

「芦安の将来を考える会」は、住民主体で地域活性化を図ろうと、有志で設立しました。過疎・高齢化が進む南アルプス市芦安に、戸沢研究員から、薬用植物を生かした町おこしの提案をいただきました。芦安の地に合った作りやすい薬用植物の生産から活用までの指導を受けています。薬用植物を民宿で薬膳料理として提供して観光客に喜んでいただき、薬草の産地として登山シーズン以外にも訪れてもらえるようにしたいですね。



さまざまなキノコの種菌を用い、品種開発を行う(上)
キノコの栽培に適した環境を調べるため、何度も栽培試験を繰り返す(下)



森林総合研究所



【問い合わせ先】
TEL 0556-22-8001 FAX 0556-22-8002

山梨森林総研 [検索](#)

シミックハケ岳薬用植物園

平成24年4月1日から、医薬品会社シミックホールディングス(株)がネーミングライツ(施設命名権)スポンサーとなりました。同社と山梨県は、薬用植物に関する共同研究にも取り組んでいます。



【問い合わせ先】
TEL 0551-36-4200 FAX 0551-36-2502

シミックハケ岳 [検索](#)

薬用植物の品種開発から商品化に向けた研究

平成9年にオープンした森林総合研究所の附属施設であるシミックハケ岳薬用植物園(北杜市小淵沢町)では、現



肉厚でアワビに似た歯応えが特徴の「クロアワビタケ」。県産ブランドキノコとして期待される

拡大と販路開拓に向けた協議会の開催、山梨学院短期大学食物栄養科と連携したレシピ開発なども行われ、ブランド化が進められています。

在、約60種類の薬用植物が試験栽培されています。当園は、一般向けにも開放されていることから、四季を通して多くの方が訪れます。

薬用植物の効用などについての研究では、新たな品種と、その栽培加工法を開発し、商品化を進めるとともに、産地による林業や地域経済の活性化にもつなげていきたいと考えています。具体的には、薬用植物で町おこしを目指す取り組みや、薬膳料理として観光客へ提供するなど観光面での活用も視野に入れていきます。

山梨県の地形は変化に富み、さまざまな森林資源に恵まれていますので、これを保全活用していくための試験研究に今後も取り組んでいきます。